

発行

# みなとしみず

国土交通省中部地方整備局  
**清水港湾事務所**  
 御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所  
 静岡市清水区日の出町7番2号  
 TEL. 054-352-4146(代表)  
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

～お知らせ～

清水港フラワーフェスタ2018 平成30年5月27日(日)開催 会場:清水マリンパークイベント広場

## 木村 俊介事務所長 着任のご挨拶

この度、4月1日付けで、清水港湾事務所長を拝命しました。東海地方での勤務や生活は、今回が初めてですが、港と関わりの深い「静岡県」で仕事をさせていただくことを楽しみにしております。まだまだ若輩の身ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

港と関わりの深い「静岡県」と申し上げましたが、本地域は、静岡県内をはじめとした産業や市民生活、最近ではクルーズ船の寄港による観光分野、また自然災害への防災・減災対策など、様々な面で港と関わりの深い地域であり、こうした地域であるが故、港に対する要請や課題も多岐に亘っているものと感じております。例えば、自動車産業をはじめとした地域の産業の競争力強化、今後の需要拡大が期待される農林水産物の輸出促進に向けた環境整備、まだまだ衰えをみせないクルーズ需要への対応、人や文化の交流拠点としての賑わいの創出、地震や津波等の大規模な自然災害への対策・・・等々、枚挙にいとまがありません。

また、将来の世代に向けて、こうした要請や課題にだけ対応するのではなく、新たな取り組みに先手先手でチャレンジしていく必要があります。

こうした様々な要請、課題への対応や新たなチャレンジを通じて、港から地域を盛り上げるべく、関係者の皆様とともに、全力で取り組んで参ります。

富士山、太平洋をはじめとした海・山・川・湖など豊かな自然と歴史、文化に恵まれた「静岡県」で仕事をさせていただくことに感謝し、港づくりを通して地域の発展に貢献できるよう尽力いたしますので、皆様のご指導をよろしくお願いいたします。



＜ノルウェージャン・ジュエル初寄港を祝う  
清水芸妓の皆さんと木村所長＞

## 《転任のご挨拶》 前 清水港湾事務所長 馬場 智

4月1日付け異動により、清水港湾事務所長退任となりました。管内の港湾に関わる皆様には、とりわけ直轄事業の実施にあたり、ご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。2年間の在任期間中には、世界最大級の客船寄港に対応するための清水港日の出岸壁改良や浚渫土砂の活用による新興津地区人工海浜の土地造成、御前崎港の防波堤整備の完了、田子の浦港の航路(－12m)整備の完了、下田港における防波堤開口部の津波対策の進捗など、関係各位のご理解とご協力のもとで円滑に事業を進めることが出来ました。また、昨年は、ヒアリ定着防止のための緊急対策工事や台風21号による被災対応など、自然の驚異を改めて思い知らされる出来事もございました。個人的にこの2年間を振り返りますと、管内各港をとりまく状況が目まぐるしく進化していった時期だったと思います。こうした時期に皆様とともに仕事が出来た巡り合わせに感謝するとともに、ここで経験させて頂いたことをこれからの港湾行政にしっかりと活かして参ります。清水港湾事務所は引き続き、地域の皆様から信頼される組織として、様々な諸課題に全力で取り組んで参ります。今後ともよろしくお願いいたします。

# 平成30年度 清水港湾事務所事業概要

当事務所では、新たな物流・人流需要を捉え、効率的で信頼性の高い港湾サービスが提供できるよう、港湾施設の機能向上、既存岸壁の老朽化対策、地震・津波対策の強化などを各港湾で進めて参ります。

## 清水港

国際拠点港湾の清水港については“大規模地震・津波への対応力強化”として外港防波堤の「粘り強い」構造への改良、“港湾施設の老朽化対策”として興津地区岸壁（水深10m）、富士見地区岸壁（水深14m）、日の出地区岸壁（水深12m）の改良を行います。



## 御前崎港

重要港湾の御前崎港については、“大規模地震・津波への対応力強化”として女岩地区防波堤（東）の「粘り強い」構造への改良、“災害復旧事業”として平成29年10月に発生した台風21号により被災した防波堤（東）先端部の消波ブロックの復旧工事をを行います。

## 田子の浦港

重要港湾の田子の浦港については、航路（水深12m）の水深を維持するため、港口部において航路保全対策を行います。

## 下田港

避難港の下田港については、“防波堤整備事業”として防波堤（東）と（西）の間にある開口部の補強工事を完了させ、防波堤（西）の補強工事に着手し、引き続き事業を進めていきます。



## 「新興津地区人工海浜・緑地に関する報告会」開催

3月17日（土）興津生涯学習交流館において興津地区連合自治会主催の「新興津地区人工海浜・緑地に関する報告会」が開催されました。

報告会は、高山茂宏興津地区連合自治会長の挨拶で始まり、望月義夫衆議院議員による来賓挨拶の後、静岡市から今年度3回実施されたワークショップの議論に基づく新興津地区の将来計画の検討状況、また清水港湾事務所及び静岡県から新興津地区の事業進捗状況についてそれぞれ報告しました。

参加された地域住民の皆さんは、真剣な表情で興津地区の将来について考えている様子でした。



＜挨拶される高山会長＞



＜挨拶される望月衆議院議員＞

## 清水港で「第10回みなとオアシス会議」開催

1月16日（火）清水テルサにおいて、「第10回みなとオアシス会議」を中部みなとオアシス連絡協議会と中部地方整備局、両主催のもと開催しました。この会議は「みなと」を核としたまちづくりを促進することを目的とした「みなとオアシス制度」を、地先に港を持つ関係者へ理解していただくために、中部地域において毎年開催しているものです。

会議では、昨年6月に登録された「みなとオアシス志摩」の取り組み、中部みなとオアシス連絡協議会からの活動報告、焼津市の踊夏祭実行委員会及び御前崎市の（一社）御前崎スマイルプロジェクトによる特別講演が行われ、参加者は熱心に耳を傾けました。

会議前には、「みなとオアシス御前崎」と「みなとオアシスおおいがわ」にて交流施設や防災施設などの現地見学会が行われ、施設概要や利活用状況などについて質疑が行われました。

今後もみなとオアシスの啓発及びみなとまちの活性化に向けて努めた活動を推進していきます。



＜第10回みなとオアシス会議の様子＞

## 清水港新興津地区に電動テナーが導入されました

1月18日（木）清水港新興津地区に電動テナー※が新規導入されました。

新興港運(株)により新規導入された電動テナーは、高い所からコンテナを下ろす時のエネルギーを電力に変換すること、待機電力を省力化することで、従来のものと比較して60%以上のCO<sub>2</sub>が削減されることから低炭素化への貢献が期待されます。

これは「災害等非常時にも効果的な港湾地域低炭素化推進事業」による取り組みで、国土交通省と環境省が連携し、港湾における先進的技術を用いた低炭素化設備の導入を支援しているものです。

また2月7日（水）鈴与(株)も袖師から新興津へ電動テナーを移設しており、新興津コンテナターミナルのテナーは14基から17基へと増え、荷役能力の向上が図られています。

※電動テナーとは、ヤード内のコンテナを運搬するときに使われる巨大な門型のクレーンのことをいう。



＜新規導入された電動テナー（新興港運株）＞

## 若手・女性技術者による港湾工事の「職場環境パトロール」を実施

港づくりを支える建設業では、若手や女性の職員が減少する中、就業者の高齢化が進行し、次世代への技術継承が大きな課題となっています。

そこで当事務所では、3月2日（金）に当事務所発注工事を対象として、官民の若手・女性技術者による「職場環境パトロール」を実施するとともに、意見交換会を行いました。

パトロール及び意見交換会には、当事務所より9名（内、女性2名）、港湾工事建設業者より11名（内、女性4名）が参加し、80t大型消波ブロック製作工事の現場をパトロールしました。

パトロールを実施後、参加者から『男女別トイレの区切りが丈の短く薄い"のれん"だった。しっかりした仕切りが必要だと感じた。』といった感想が出され、意見交換会では『見学会やインターンシップで、実際に女性が働いている現場を見てもらい、魅力を伝える事が重要。』等の意見が出されました。

最後に当事務所副所長 鈴木より『今回出された貴重な意見をしっかり受け止め、施策に反映するようにしたい。』とまとめの挨拶を行いました。



<職場環境パトロール参加者集合写真>

## テロ対策強化に向け「埠頭保安設備の合同点検」を実施

先日韓国で開催された平昌オリンピック・パラリンピックでの日本人選手の活躍は、多くの感動を与えてくれました。そして日本においても、来年はラグビーワールドカップ、2020年には東京オリンピック・パラリンピックなど国際的な大会の開催が控えています。

国際的な大会に向けて、人や物の流れの拠点となる港湾においては、テロ対策をはじめとする保安対策のより一層の強化が求められます。そこで当事務所では、3月5日（月）に県内初となる「埠頭保安設備の合同点検」を行いました。

今回は、新興津ふ頭のコンテナターミナルを囲うフェンス等に保安上問題となる点がないかについて、中部地方整備局を中心に、静岡県、清水海上保安部、名古屋税関清水税関支署及び清水警察署と合同で、普段とは違った視点での保安上の気づきや知見での点検、意見交換を行いました。

意見交換では、各機関が保安設備に関して気づいた点や、不審者を発見した際には躊躇せず110番や118番（海上保安庁緊急通報用電話番号）へ、など保安対策に関する様々な意見を出し合いました。

今回の合同点検でいただいた意見を踏まえ、今後も各機関と連携し、より一層港湾の保安対策に取り組んで参ります。



<保安設備点検の様子>



<意見交換会の様子>

## ヒアリ定着防止に貢献した企業に感謝状を贈りました

昨年6月に国内で初めてヒアリが確認されて以降、当事務所でも、ヒアリの生息国又は地域との定期コンテナ航路のある清水港、御前崎港において、ヒアリの定着を防止するための緊急対策工事を行ってきました。

その後、ヒアリの定着は認められておらず一定の効果が認められていることから、3月26日（月）当事務所より、ヒアリ定着防止緊急対策工事に従事して頂いた企業に対して感謝状を贈りました。

### 【受彰者】

鈴与建設株式会社（清水港）  
株式会社橋本組（御前崎港）



<受彰者記念撮影>

## 下田港防波堤「超大型ブロック製作」工事を見学

2月16日（金）藤枝市から静岡県建設学院の訓練生、講師・職員24名が、下田港防波堤に設置する超大型ブロック（長さ約9m×幅約10m×高さ約7m※）を見学しました。※最大長の部分

見学会では、現場見学の前に超大型ブロックの施工手順のビデオ映像を見ながら説明し、続いて超大型ブロック製作時に使用した材料（摩擦増大マット）の効果を模型で説明しました。

その後、実際に作業現場に行き、足場の上から超大型ブロックの作業状況の見学をしました。

訓練生はもとより講師・職員も、超大型ブロックの大きさに驚いていました。また今回の見学者は、現場作業を主とした学校であるため、積極的な質問が飛び交い、とても有意義な見学会となりました。



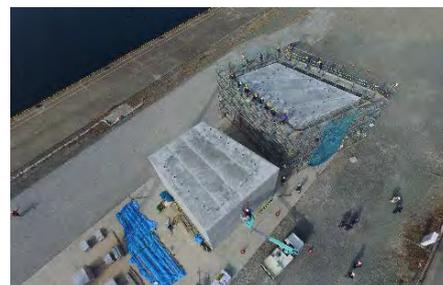
<超大型ブロック見学の様子>



<施工手順説明の様子>



<使用材料の効果の説明の様子>



<現場見学上空の様子>

## 「春休み清水港見学会」を開催しました

3月21日（水・祝）当事務所が整備を進めている清水港を身近に感じていただくため、一般の方を対象に「春休み清水港見学会」を開催しました。

当日はあいにくの雨でしたが、親子連れなど約165名の方々にご参加いただき、清水港バイクルーズ船「ベイプロムナード号」に乗って、普段見ることのない海上からの清水港を楽しんでいただきました。

参加者からは『清水港について色々を知ることができ、勉強になった。』『また来年も参加したい。』といった感想をいただきました。



<船内から清水港を見学する様子>

## 静岡県内クルーズ船誘致に向けた取り組みを紹介します

### 【3月16日（金）第2回ふじのくにクルーズ船誘致連絡協議会】

- ・静岡県が今年度実施した伊豆半島への客船寄港可能性調査の概要や、各団体の活動等を報告しました。

### 【3月20日（火）田子の浦港客船誘致委員会 設立総会】

- ・田子の浦港において、客船誘致により地域活性化や地域経済への波及を図ることを目的に、富士市長を会長に「田子の浦港客船誘致委員会」が設立されました。

### 【3月22日（木）清水港クルーズ拠点形成協定書 締結式】

- ・静岡県とゲンティン香港が、クルーズ拠点形成に関する協定書を交わし、日の出ふ頭をクルーズ船の受け入れ拠点として官民連携で整備して行くことを確認しました。

### 【3月31日（土）清水港のクルーズ施策に関する報告会】

- ・清水港を巡る取り組みについて地元関係者の皆様への報告会を清水港客船誘致委員会が開催しました。当日は望月義夫衆議院議員より港議連の活動、国のクルーズ施策について基調講演を頂きました。

# シリーズ「モノから見える清水港」⑩(全10回)

## 和船を造る

さて、フェルケール博物館第3展示室の1/10和船模型は焼津の近藤和船研究所で造られた国内屈指の模型群として知られています。その傍らに和船の製造を紹介したコーナーがあるのをご存じでしょうか？

和船は洋式船に設けられたキールやフレーム（人間の体では背骨と肋骨にあたる）がなく、板をつないで建造していることが大きな特徴です。その建造には西洋にはない「船釘と罫（つば）ノミ」を使います。船釘は打ちたたいて作る平たい釘で、罫ノミは文字通り刃の罫のような突起が付いたノミです。この罫ノミで2枚の板を穿つ穴を開け、船釘を打ち込んで1枚の板にします（図②）。和船はこの方法を繰り返して、板を斜めに接いだり、曲げたりして一艘の船を造ってしまいます。図④ 和船の構造を見ると板作りになっているのがわかります。また、西洋の船は甲板を固定し、太平洋の荒波を越えることができるように頑丈に造っています。一方、和船は梁で船体を補強していますが、甲板がわりの船板を取り外して荷物を山積みできるように造られていました。考えるに、西洋では大航海時代に大海原を航海するために頑丈な船を建造する必要がありましたが、日本は大航海時代にあたる16～17世紀にかけて、外国へ進出することから外国との交流を制限する政策に変わっていききました。そのため、日本では沿岸部の港を経由する航法に限定され、天候が荒れるとすぐに港へと回避するよう考えられていました。和船は脆弱な構造でしたが、船板を外して荷物を山積みすることができました。どうやら日本と西洋

では船を建造する目的や方向性が異なっていたようです。

駿河湾周辺でも昭和30年代まで和船が漁に使われており、清水にも船大工がいました。この展示は元船大工の方に協力をお願いして作成しました。



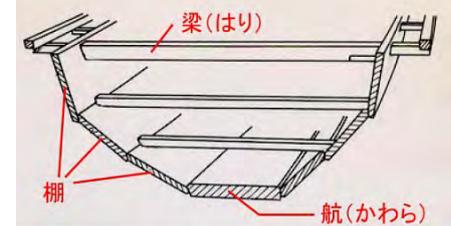
① 船釘と罫ノミ



② 板のつなぎ方



③ 打ち込まれた船釘



④ 和船の構造

※このシリーズは「モノから見える清水港」について紹介するもので、今回は連載10回目です。

椿原 靖弘（ちんばらやすひろ）1962年 藤枝市生まれ、フェルケール博物館 学芸部長

### 海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれみなど

**0120-497-370**

受付時間：9時30分～12時、13時～17時（土・日、祝祭日は除く）

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみななどに関することは何でもお問い合わせください

### ■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

江口・浦野 Tel 054-352-4148

ご意見ご感想をお寄せ下さい。☘

pa.cbr-shimizukouwan@mlit.go.jp